（様式1）

平成24年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ０３８	**提案機関名**	農業技術センター普及指導部

要望問題名　凝集剤にポリシリカ鉄を利用した浄水汚泥のイチゴ育苗培土での利用について

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

現在、イチゴ育苗培土に使用されている浄水汚泥は、凝集剤にアルミニウムを含み、リン酸欠乏が起きるため、他の資材の混合が推奨されている。しかし、全農技術センター肥料研究室では、ポリシリカ鉄を凝集剤として使用した浄水汚泥を開発中である。全農の研究員によると、ポリシリカ鉄はケイ酸と鉄を含み、リン酸の吸着は少なく、ケイ酸資材としての効果はスーパーイネルギーと同等以上とのことであり、うどんこ病の抑制効果も期待できる。また、ｐＨ５程度とイチゴ資材としての適用性は高いと考えられる。また、資材としての提供が可能とのことなので、イチゴの育苗培土としての利用が可能か検討していただきたい。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術センター　③水産技術センター ④自然環境保全センター

備　考

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	**担当部所**	野菜作物研究部

対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

地産地消を推進する安定生産技術の開発

対応の内容等

本県のイチゴ育苗培土には安価で多量に入手でき、アルミニウムを凝集剤として使用した浄水汚泥が広く利用されています。しかし、アルミニウムはリン酸を固定するため、リン酸肥料を施用しないとリン酸欠乏症を生じて生育に影響がでます。近年、ケイ酸と鉄からなる凝集剤（ポリシリカ鉄（PSI））が開発され、それを用いた浄水汚泥（PSI 資材）が製造され始めています。現在は製造量が少なく、多量に入手することは困難ですが、今後製造の増加が予想され、浄水汚泥の特性がイチゴの育苗培土に適する可能性があることから、イチゴの育苗試験の中で PSI 資材を用いた際の生育特性を調査します。

解決予定年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内

備　考